

平成 24 年度
供給計画の概要

平成 24 年 3 月

九州電力株式会社

平成24年度供給計画は、

- ・ 地球温暖化対策も含めた国のエネルギー政策が不透明であること
- ・ 原子力発電所の運転再開に関する見通しが不透明であること
- ・ 東日本大震災以降の節電による影響を踏まえた需要動向の見極めが必要なこと

から、需要想定および需給バランスなど具体的な計画を策定できない箇所は、「未定」との記載で届け出た。

〔電力販売および最大電力需給バランス〕

○ 平成24年度以降の見通しは「未定」。

項目	年度	
	H 22 (実績)	H 23 (推実)
販売電力量 (億 kWh)	875 (857)	853 (845)
最大電力 (万 kW)	1,676 (1,655)	1,495 (1,551)

項目	年度	
	H 22 (実績)	H 23 (推実)
需 要 (万 kW)	1,676	1,495
供 給 力 (万 kW)	1,843	1,685
供給予備力 (万 kW)	167	190
供給予備率 (%)	10.0	12.7

(注)1. ()は気温等補正後

(注)2. 最大電力は送電端最大3日平均

〔電源開発計画〕

区分	設備	発電所および ユニット	出力	工 期	
				着 工	運 開
工事中	水力	上椎葉維持流量	330 kW	H 23 年 8 月	H 25 年 3 月
	火力(石炭)	松浦2号	100 万 kW	H 13 年 3 月	H 35 年度以降
着工準備中	水力	一ツ瀬維持流量	330 kW	H 24 年 6 月	H 25 年 10 月
		新甲佐 ¹	7,200 kW	H 24 年 6 月	H 27 年 3 月
		竜宮滝	190 kW	H 25 年 6 月	H 27 年 3 月
		新名音川 ²	390 kW	H 26 年 10 月	H 28 年 6 月
	火力(LNG)	新大分3号系列(第4軸)	48 万 kW	H 25 年 7 月	H 28 年 7 月
	火力(石油)	豊前デ・イセル1~3号	各 1,200 kW	H 24 年 4 月	H 24 年 7 月
	原子力	川内原子力3号	159 万 kW	未 定	未 定

1. 新甲佐発電所新設に関連して、既設甲佐発電所(3,900kW)を廃止(H24年10月)

2. 新名音川発電所新設に関連して、既設名音川発電所(65kW)を廃止(H26年10月)

〔電源廃止計画〕

	設備	発電所および ユニット	出力	実施時期
廃止	火力(石油)	大分1・2号	25 万 kW × 2	H 24 年度

(参考) 計画停止	火力(石油)	唐津2・3号	37.5 万 kW、50 万 kW	H 16 ~ 33 年度
--------------	--------	--------	-------------------	--------------

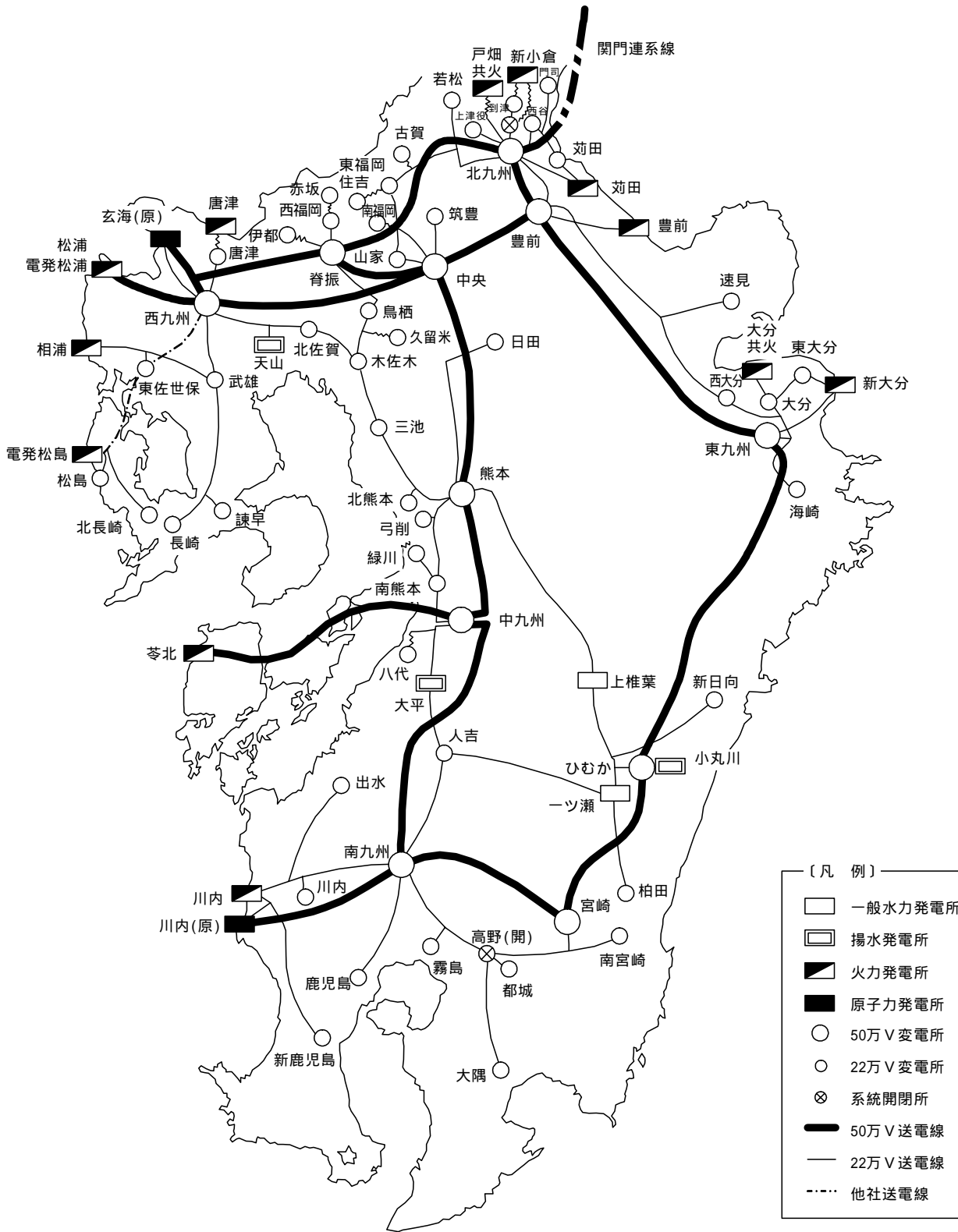
〔主要送電設備計画〕

区 分	線 路 名	工事概要		工 期		工 事 理 由
		電圧 (万V)	巨長 (km)	着 工	運 開	
着 工 準 備 中	日 向 幹 線	50	124	H26年11月	H31年 6 月	九州北部・南部50万V系統ル-ト事故対策(2ル-ト化)(新設)
	一 ツ 瀬 幹 線 ひむか変電所 引込	22	8	H24年 5 月	H26年 6 月	宮崎北部・中央部地区需要対策(新設)
	脊 振 伊 都 線	22	20	H24年 7 月	H27年 6 月	福岡西部・糸島地区需要対策(新設)
	鹿 児 島 幹 線	22	44	H24年10月	H28年 6 月	鹿児島地区需要対策(増強)
	弓 削 分 岐 線	22	1	H26年10月	H28年 6 月	熊本東部地区需要対策(新設)
	新 鹿 児 島 線 川内原子力発電所 引込	22	5	未 定	未 定	川内原子力発電所3号機 輸送対策(新設)

〔主要変電設備計画〕

区 分	変 電 所 名	工事概要		工 期		工 事 理 由
		電圧 (万V)	容量 (万kVA)	着 工	運 開	
工事中	弓 削 変 電 所	22/11/6.6	30/15/25	H23年 9 月	H28年 6 月	熊本東部地区需要対策(昇圧)
着 工 準 備 中	ひむか変電所	50/22	100	H24年 6 月	H26年 6 月	宮崎北部・中央部地区需要対策 (新設)
	伊 都 変 電 所	22/6.6	60	H25年11月	H27年 6 月	福岡西部・糸島地区需要対策(新設)
	大 分 変 電 所	22/6.6	30	H26年 5 月	H27年 6 月	老朽対策(増強)
	鹿 児 島 変 電 所	22/6.6	30	H27年 3 月	H28年 6 月	鹿児島地区需要対策(増強)
	東佐世保変電所	22/6.6	30	H28年 7 月	H29年 6 月	佐世保地区需要対策(増強)

[基幹系統計画 (平成 33 年度末)]



(参考) 再生可能エネルギーへの取り組み

- 国産エネルギー有効活用の観点から、また地球温暖化対策面で優れた電源であることから、風力・太陽光・バイオマス・水力・地熱などの再生可能エネルギーの積極的な開発、導入を推進。
- 風力および太陽光については、平成32年度までに設備量であわせて300万kWの導入に向けて取り組む。(昨年度計画250万kWから + 50万kW拡大)

〔再生可能エネルギー発電設備(当社およびグループ会社の設備量)〕

風力発電

(kW)

	甌 島	野間岬	黒 島	長 島	奄美大島	鷲尾岳	合 計
所在地	鹿児島県 薩摩川内市	鹿児島県 南さつま市	鹿児島県 三島村	鹿児島県 長島町	鹿児島県 奄美市	長崎県 佐世保市	
出 力	250	3,000	10	50,400	1,990	12,000	67,650

グループ会社による開発

太陽光発電

(kW)

	既 設		計 画		合 計
	メガソーラー 大牟田	事業所等 への設置	メガソーラー 大村	事業所等 への設置	
出 力	3,000	2,298	13,000	約1,800	約20,100

グループ会社による開発 (H24年度に3,000kW、H25年度に10,000kW運開予定)

バイオマス発電・廃棄物発電

(kW)

	既 設			計 画	合 計
	みやざき バイオマスサイクル ¹	福岡 クリーンエナジー ¹	苓 北 ² (140万kW)	松 浦 ³ (70万kW)	
燃 料	バイオマス (鶏糞)	一般廃棄物	バイオマス (木質チップ)	バイオマス (下水汚泥)	
出 力	11,350	29,200	重量比で 最大1%混焼		40,550

1 グループ会社による開発

2 既設苓北発電所における混焼 (H22~H26年度)

3 既設松浦発電所における混焼 (H25年度から開始予定、700t/年程度)

水力発電

(kW)

	既 設	計 画					合 計
	138箇所	上椎葉 維持流量	一ツ瀬 維持流量	新甲佐	竜宮滝	新名音川	
出 力	1,281,846	330	330	7,200 (3,900)	190	390 (65)	1,286,321

(注) 1. 一般水力(揚水除き)

2. 新甲佐の欄の 3,900kWは、既設甲佐発電所の廃止分

3. 新名音川の欄の 65kWは、既設名音川発電所の廃止分

地熱発電

(kW)

	大 岳	八丁原	山 川	大 霧	滝 上	八丁原 バイナリー	合 計
出 力	12,500	110,000	30,000	30,000	27,500	2,000	212,000

(注) 新規開発に向け、資源賦存面から有望な地点で開発可能性調査を実施中

(参考) 設備投資計画

(億円)

		H23 (推実)	H24 (計画)
電 源	水 力	159	114
	火 力	86	124
	原 子 力	474	264
	新 工 等	21	37
	小 計	740	539
流 通	送 電	349	338
	変 電	147	165
	配 電	311	283
	小 計	807	786
その他	業務・その他	217	172
	原子燃料	232	277
	附帯事業	50	34
	小 計	499	483
合 計		2,046	1,808